

尾花沢市

橋梁長寿命化修繕計画



銀山温泉線 湯沢橋

令和 7 年 3 月

山形県尾花沢市



1. 長寿命化修繕計画の策定経緯

尾花沢市が平成 25 年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画は、平成 26 年度に点検方法が遠望目視点検から近接目視点検に変更されたことを受けて、前回から 5 年経過後に実施された点検結果に基づいて令和元年度に見直しました。

その要点は、以下の通りです。

- ① 点検方法が近接目視点検となりより詳細かつ信頼性が高い健全度診断が期待できこれを反映する。
- ② 道路橋示方書改定により新設橋梁は 100 年耐久性が求められており、補修計画に考慮する。
- ③ 前回策定の修繕計画に従って実施してきた修繕工事等の実績を受けて、より高精度の計画にすることとする。
- ④ 計画対象橋梁数や管理レベルについて実績を考慮して見直すこととする。
- ⑤ 橋梁供用の現状や利用者である市民の意見を反映した計画とする。
- ⑥ 市の財政実情と都市計画を反映した合理的な計画とする。

なお、管理橋梁数は橋長等精査した結果、前回計画より 6 橋増加して 140 橋となりました。

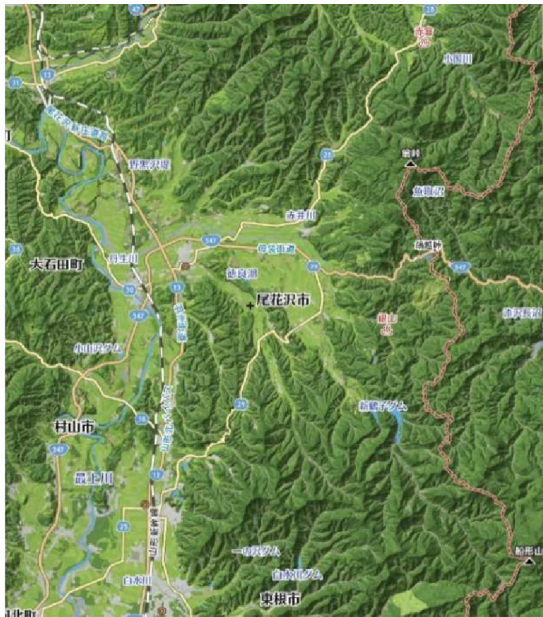
2. 策定の背景と目的

1) 背景

尾花沢市は山形県の北東部に位置する人口約 1.5 万人の都市であり、市のキャッチコピーは「雪とスイカと花笠のまち」です。標高は 70m から 1,500m と起伏に富み、奥羽山脈や出羽丘陵などの山々に囲まれた盆地を形成しています。短い日照時間と低温、多湿、多雪のため、春の融雪が遅く、農耕期間が短いのが尾花沢盆地の特徴です。年間の寒暖の差が大きく、四季の移り変わりが明瞭な地域です。冬の季節風が月山や御所山等の稜線にさえぎられ、雪を多く降らせるため、平野部でも積雪量が 2m に及ぶことがある全国有数の豪雪地帯です。



道路・交通網をみると、市の西部を国道 13 号が南北方向に縦断し、新庄市及び山形市と結んでいます。また、国道 347 号が市の中心を東西に横断し、宮城県大崎市及び寒河江市方面と結んでいます。冬期は一部閉鎖となります。現在、東北自動車道等の整備が進められており、広域的な交通条件のさらなる向上が見込まれます。



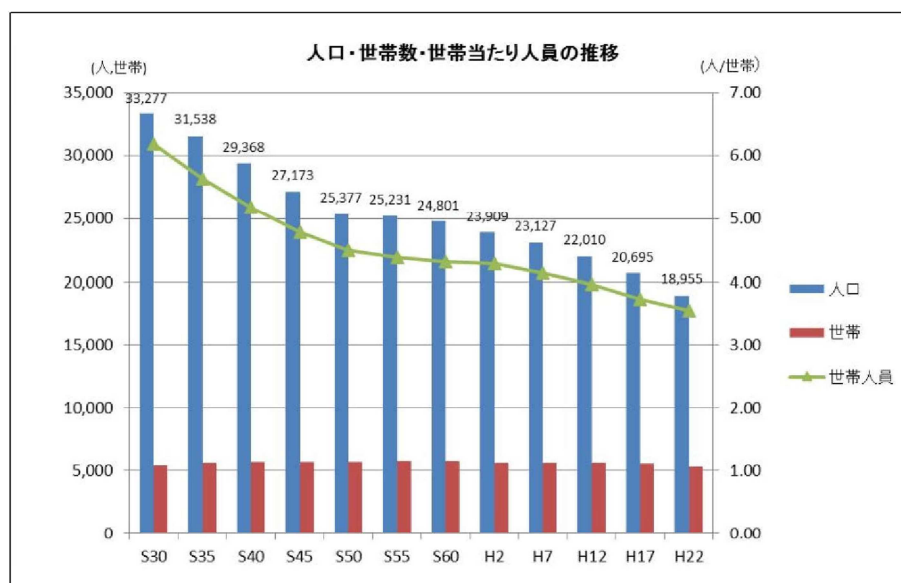
橋梁は、最上川や丹生川に架かる大型橋梁以外は、多くが中小河川を渡る市道を構成するものであり、単径間のコンクリート構造が多いのが特徴と言えます。

140 橋を数える管理橋梁の多くが、昭和 30 年代から 40 年代にかけて建設され、20 年後には、約 70% の橋梁が、一般的に橋の限界年齢とされる橋齢 50 歳を超えて、利用する上での安全性が懸念される状況に到ることが予測されます。また、尾花沢市の冬期の豪雪や、年間を通じての温度変化など厳しい自然条件も老朽化を進める可能性があります。

これに対処するためには、今後、橋梁の架け替えや大掛かりな補修工事が必要となり、維持更新費用は増大して行くことが予測される一方、市の財政状況は今後も更に厳しさを増すことは確実と思われます。こうした状況において、市は、「人々が集う雪に強い都市基盤づくり」に基づき、橋梁の将来の維持管理をいかに行っていくか検討を重ねてきました。

国土交通省も橋梁等社会資本の老朽化への対策を積極的に推進している現状から、市は、橋梁の利用者である市民に確かな「安全・安心」を提供しながら、橋梁を「健全に、より長く」使い続けることが喫緊の課題であると捉え、「橋梁の劣化・損傷が軽微なうちに補修対策等を計画的に実施して、維持更新の費用を縮減する」という予防保全的修繕に基づく「長寿命化修繕計画」の遂行を急ぐこととしました。

尾花沢市の人口動態については、以下の国勢調査が示すように年々減少する傾向にあり、直近令和 2 年の調査では約 15,000 人となっています。



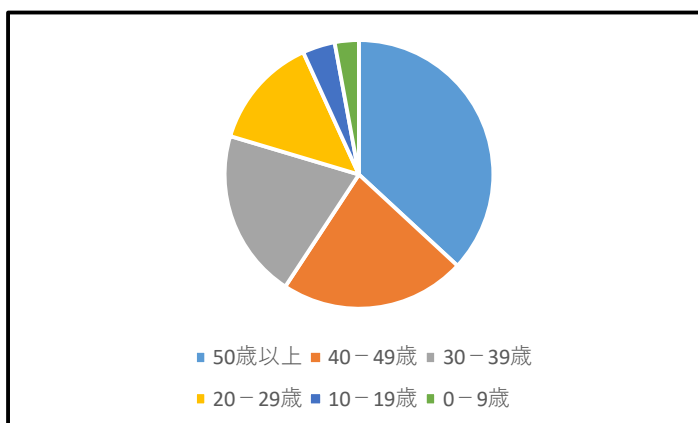
資料：国勢調査

（管理橋梁の今後の高齢化の予測）

建設年次を基に現時点での供用年数を示し、一般的に老朽化が問題とされる橋齢 50 歳以上の橋梁数がどのように増加して行くのかについて示します。

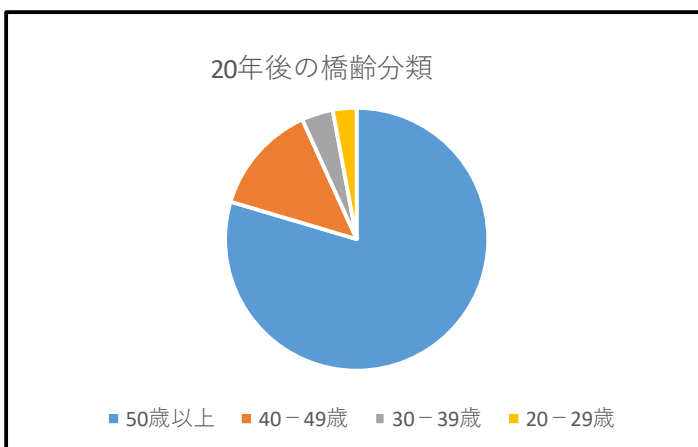
橋 齢	橋 数
50 歳 以 上	38
40－49 歳	23
30－39 歳	21
20－29 歳	14
10－19 歳	4
0－9 歳	3

（103 橋の橋齢分類）



橋 齢	橋 数
50 歳 以 上	82
40－49 歳	14
30－39 歳	4
20－29 歳	3

（20 年後の橋齢分類）



計画対象 140 橋のうち建設年が不明な 37 橋を除いた 103 橋についてみると、橋齢 50 歳以上が 38 橋、30～49 歳の橋梁が 44 橋でこれらが 82 橋（80%）を超えている。これは 20 年後には管理橋梁の約 80%が高齢化することとなり、長寿命化対応を急ぐ必要があることが明白であると言えます。

2) 目的

点検や補修を定期的にかつ計画的に実施し、市民生活に不可欠な道路ネットワークを恒久的に提供することとします。また、橋梁の傷みが小さなうちに対策を講じ、できるだけ長く使うという“予防保全型管理”を基本とした点検・補修・更新等の計画を策定し実行することにより、従来の“対症療发型管理”を続けた場合に生じると予測される対策費用を縮減し、市財政の更なる健全化を図ります。

3) 尾花沢市としての橋梁長寿命化修繕計画策定の方針

尾花沢市としては、基本計画「元気おばなざわ創造プラン」において、「人々が集う雪に強い都市基盤づくり」を目標に掲げ、道路・交通網分野における主要施策のひとつとして「橋梁について、計画的な点検と補修を行い、長寿命化に努める」としました。

橋梁長寿命化修繕計画策定にあたっての尾花沢市の基本方針として、5 つの方針を掲げます。

① 雪に強い都市基盤づくりのための橋梁維持管理

重要な交通網の確保を重視し、これを担う橋梁を優先的に整備します。

長期にわたって冬期閉鎖される橋梁については、閉鎖解除時に速やかな点検を行い、早期開通を望む市民に安全な道路を提供することに努めます。

② 財政事情を考慮した効率的な橋梁維持管理

短期 10 年間並びに中長期 50 年間程度の計画期間において、市が供出できる予算額を設定し、管理橋梁の重要性や供用状況からグルーピングを行い、維持管理レベルに差異を設けることにより効率的な修繕計画を策定し、維持管理コストの縮減を図ります。なお、観光資源となりうる橋梁も多いので、これらについては観光要素を保持しつつ適切に維持していくことに努めます。

③ 市職員自身による点検に基づく効果的な橋梁維持管理

市民と密着したより効果的な橋梁維持管理を行うため、維持管理レベルが高い橋梁については、市職員自身による点検と住民ヒアリング、およびそれらに基づく維持管理の実施と維持管理計画の更新を行っていくことを考えています。その実現のために、職員の資質向上と橋梁維持修繕技術の伝承、橋梁維持管理情報の確実な蓄積と効率的な利活用を目的とした教育訓練計画について検討します。

④ 新技術の活用による維持費用の縮減

橋梁定期点検において、橋梁点検車等の特殊車両を使用する橋梁については、橋梁点検用ドローンや高解像度カメラ等の新技術を導入し、従来よりも安全かつ省力化・効率化を図ることにより、令和 7 年～令和 10 年の 4 年間で約 2 百万円程度の点検費用削減を目標に努めていきます。

⑤ 橋梁の集約化・撤去

損傷が著しく維持費用が増大することが想定される橋梁については、利用状況を考慮しつつ撤去を検討し、令和 8 年度までに 1 橋の撤去を進めます。

また、橋梁建設時からの時間経過とともに、土地利用の変化や周辺道路網の整備により、利用交通量が著しく減少している橋梁については集約化・撤去に取り組み、管理対象橋梁の 5%程度(8 橋)を目標に、1.1 億円(50 年比)程度の橋梁点検費・補修費の費用削減に努めていきます。

なお、維持管理業務全般について、山形県県土整備部より技術的な助言・指導を受けながら、適切な業務遂行を図ることとします。

3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

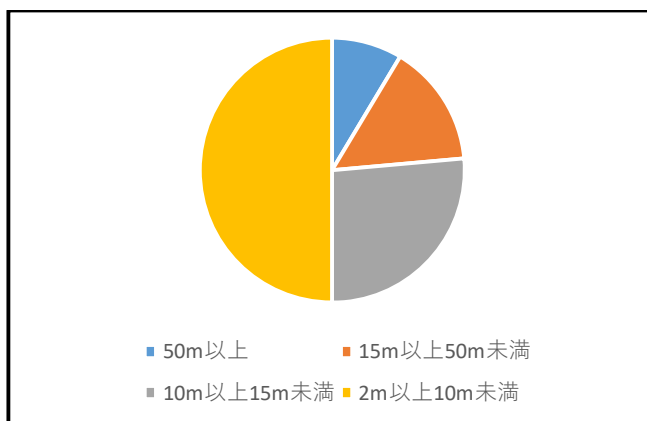
計画対象 140 橋の特徴について示します。

1) 管理橋梁の特徴

- ・最上川や丹生川に架かる大型橋梁を除くと、市内の小河川や用水路に架かる小規模橋梁が多くを占めています。

橋長(m)	橋数
50m以上	12
15m以上50m未満	21
10m以上15m未満	37
2m以上10m未満	70

(橋長分類)



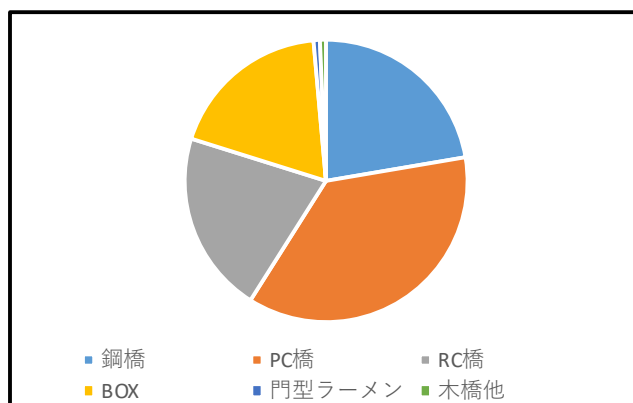
- ・橋梁の種類は下記のとおり多岐にわたっています。

全体として、鋼構造に比べコンクリート構造(PC, RC)の橋が多く採用されています。なお、BOX(ボックスカルバート橋)も構造的にはRC構造となります。

橋長 15m以上については、殆どがPC橋もしくは鋼橋となっています。

上部工構造	橋数
鋼橋	31
PC橋	51
RC橋	29
BOX	26
門型ラーメン	1
木橋他	1

(上部工形式分類)



2) 計画対象橋梁の抽出と管理レベル

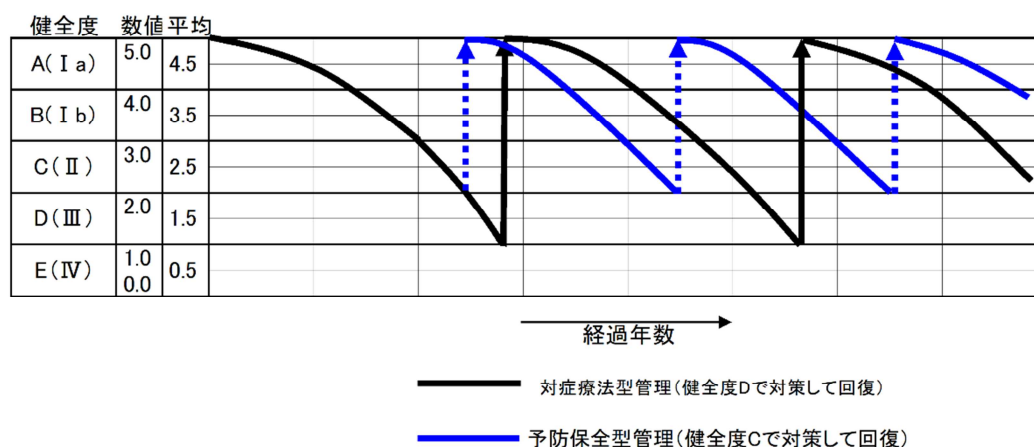
- ・全管理橋梁 140 橋を長寿命化修繕計画の対象橋梁としました。

	一般国道	主要地方道	市道	農道	林道	合計
全管理橋梁数	0	0	140	0	0	140
うち計画の対象橋梁数	0	0	140	0	0	140
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	134	0	0	134
うち H30 年度計画策定橋梁数	0	0	134	0	0	134

- ・140 橋について、橋梁規模、構造及び交差条件による第 3 者被害への影響度、孤立集落及び市民生活との関連度合いに着目して、4 段階の管理レベルに基づく管理区分を設定しました。
- ・その管理区分に応じて 140 橋の橋梁を分類し、グルーピングを行いました。

なお、長寿命化修繕計画に基本となる「予防保全型管理」と従来型の「対症療法型管理」の管理シナリオを示すと以下の模式図となります。劣化損傷が軽微なうちに補修対策を講じて橋梁の長寿命化を図るのが予防保全型管理、損傷劣化が顕著になってから補修対策等を行うのが対症療法型管理です。また、今回小規模で幅員が狭く利用度が低い橋を対象に「経過観察型管理」を新たに加え、架け替えや通行止め措置が必要となるまで特に対策を行わない管理を適用しました。

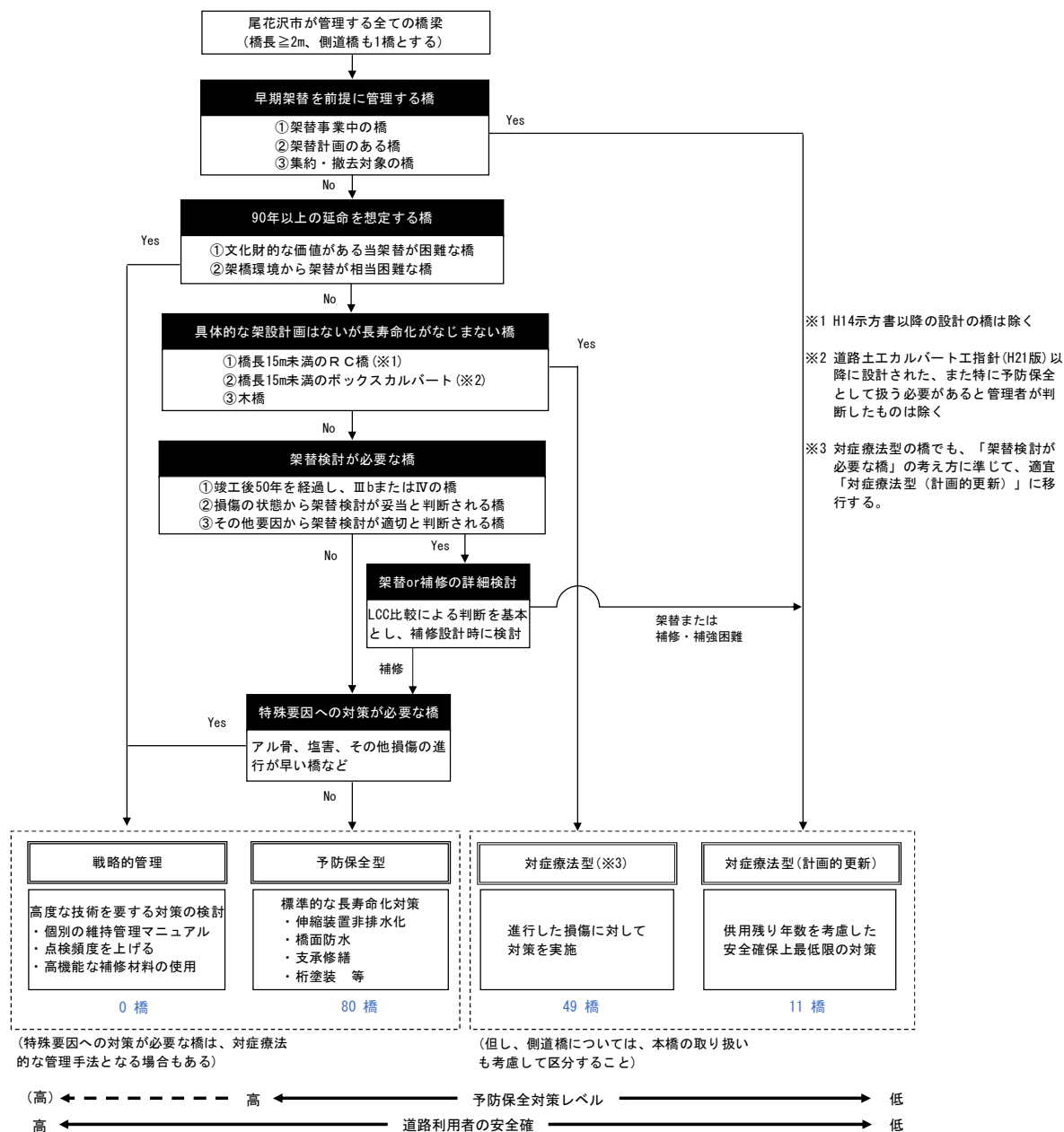
維持管理シナリオの比較図(管理水準の設定)



- 注)
- ・上記劣化曲線は、主桁、床版、下部工に対して適用する。
 - ・支承、伸縮装置、舗装に対しては、耐用年数に到達時点(健全度E)で更新(交換)とする。

なお、上記健全度 A～E は、後掲する対策区分評価 I a、I b、II、III、IV に対応するとします。

検討の結果、より厳密な予防安全管理を行う「戦略的予防保全型管理」適用の橋梁は無く、予防保全型管理が 80 橋、対症療法型管理が 49 橋、経過観察型管理適用は 11 橋としました。



維持管理区分設定に当たっては、山形県県土整備部発行の「山形県橋梁長寿命化総合マニュアル(案)」(令和5年3月)を参考としました。

4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本方針

尾花沢市では、令和5年度までに、計画対象橋梁140橋について3巡目の橋梁点検を実施し、健全度調査結果等について取りまとめを行いました。

1) 健全度の把握の基本的な方針

- ・点検方法は、基本的に5年間隔で実施し、「山形県橋梁点検要領」（平成29年6月、令和4年3月）に従うことします。
- ・点検結果をもとに、「山形県橋梁長寿命化総合マニュアル（案）」（令和5年3月）に従い、橋梁の劣化・損傷状況を把握、並びにその進行を予測して、長寿命化のための修繕計画を策定します。
- ・健全度把握と評価は、後述する維持管理区分ごとの維持管理シナリオに基づいて行い、橋梁の構造的特性を考慮したものとします。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

- ・管理橋梁の的確な健全度把握のために、「橋梁マネジメントサイクル」に従って職員による「日常点検・パトロール」を実施し、外観的な異常を検出し、必要と判断された場合は、清掃や部分的維持工事を実施します。特に沓座周りや排水設備の状況について留意します。
- ・長期にわたって冬期閉鎖される橋梁については、閉鎖解除時に安全確認のための職員点検を速やかに行います。
- ・長寿命化修繕計画に基づき定期点検を実施します。点検は全管理橋梁について5年間隔で実施し、健全度を評価して修繕計画の策定・遂行等に反映します。
- ・点検は全径間近接目視点検とします。
- ・長寿命化修繕計画は常に公開して、「市民の声」を吸い上げることに努め、適宜、橋梁の維持管理に反映することとします。また、橋梁施設維持管理の重要性を、市ホームページや市内ネットワークを通じて周知し、異常時の報知、清掃工事などへの協力を得ることに努めることとします。

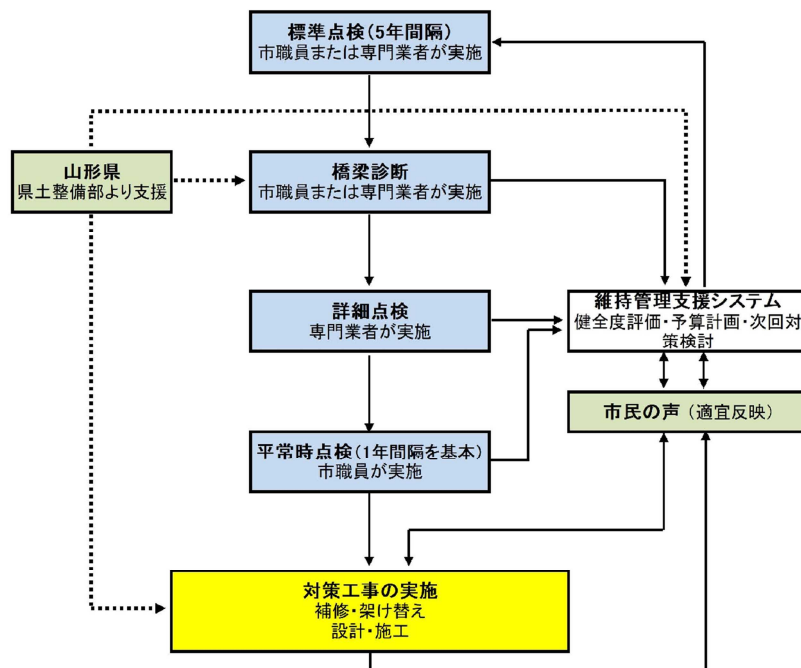
※3巡目の点検結果等については、別紙『尾花沢市橋梁一覧』のとおりとなります。

5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架け替えに係る費用の縮減に関する基本方針

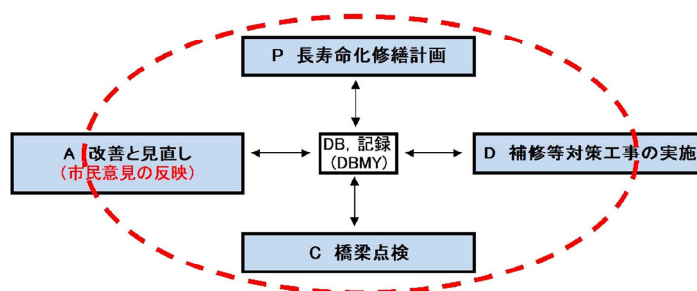
以下の基本方針に従い、橋梁の長寿命化・修繕・架け替えの費用の縮減を実現します。

- ・ 前述した管理区分に対応する対策シナリオに基づいたライフサイクルコスト（LCC）算定シミュレーションを実施し、費用面で最も有利な計画、対策工について検討し確定します。
- ・ 修繕計画策定期間は、管理橋梁の現在供用年数や耐用年数を考慮し、50年間（2025年度～2074年度）と設定します。
- ・ 橋梁を構成する部材の劣化予測は、既往の点検データの回帰分析結果を基とする「山形県橋梁長寿命化総合マニュアル(案)」に記載する予測式を用いることとし、修繕計画において設定される補修対策とその費用単価についても、上記マニュアルや最新の積算基準等を参考に設定します。
- ・ 橋梁の架け替えに際しては、5年間隔で実施する定期点検結果によって判断し、その時点で最も経済的で合理的と判断される形式に架け替えるものとします。但し、その時点での橋梁の利用状況を考慮して、場合によっては通行制限での供用継続等の対応を行うこととします。
- ・ 修繕計画は、市の維持管理予算計画を反映した予算制約の下で、工事費の突出を避けるための平準化を実施することとし、この場合、各橋梁の架橋条件や健全度評価結果より対策優先度評価結果を考慮します。
- ・ 橋梁マネジメントサイクルを策定・確立させて、効率的で合理的な維持管理を実現します。なお、維持管理業務全般について、山形県県土整備部より技術的な助言・指導を受けながら、適切な業務遂行を図ることとします。
- ・ 現在の利用状況などを考慮したうえで、代替路線がある場合には地元住民と協議し、計画的に施設の集約化・撤去を検討していきます。

橋梁マネジメントサイクル



マネジメントサイクルでのPDCAサイクルの運用



DBMY：山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム

市では、DBMY「山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム」を利用しており、県土整備部との情報交換を緊密に行ないながら、より適切な橋梁維持管理を目指しています。前述した「市民の声」も逐次反映することとします。

6. 修繕計画の概要

以下に、策定した修繕計画の要点を記します。

① 橋梁点検による対策区分評価判定

過年度点検調査により、140 橋の対策区分は、以下の通り判定されました。

判定区分	対策内容と時期	橋梁数	
		3 巡目点検	2 巡目点検
I	措置の必要がない、あるいは当面措置の必要がない状態	65	78
II	予防保全の観点から措置が望ましい	57	47
III a	主要部材の損傷を助長する等の可能性から、 早期に措置を講ずべき状態	4	7
III b	構造物の機能から、早期に措置を講ずべき状態	13	
IV	緊急措置が必要	1	2

この違いは、年数の経過により劣化損傷が進行したと考えられます。

このうち、2 巡目点検で判定区分Ⅳであった 2 橋についてはすでに対策済で、3 巡目点検での判定区分Ⅳの 1 橋については、現在対策中です。

判定区分Ⅲの橋梁は基本的に 5 年以内を目標に対策を進めており、既に 14 橋について補修等を済ませました。

判定区分Ⅱ、Ⅰについては劣化予測と対策優先度評価に基づいて補修等を実施することとします。

② 劣化損傷の傾向分析

橋梁の規模、形式及び構造材料についての整理・分類を行った結果、劣化損傷は、特に RC 桁、RC 床版に顕著であり、その要因としては、コンクリートの中性化等による経年劣化と地域気候による凍害であると推定されます。また、鋼橋については、防食機能の劣化とそれに続く腐食であると推定されます。下部工コンクリートについても中性化によるものが大きく、塩害やアルカリ骨材反応による損傷は殆ど見受けられません。

③ 補修対策

補修対策は、短期計画及び中長期計画において、設定した維持管理水準を保持するべく決定しました。これに際しては、「山形県橋梁長寿命化総合マニュアル」や最近の積算基準等を参考とし、また前回計画策定以降実施した補修設計や工事の実績を考慮しました。

④ 架け替え計画

架け替えについては、5 年間隔で実施する定期点検結果に基づき判断することとします。なお、中長期シミュレーションにおいて、架け替えを考慮する場合には「山形県橋梁長寿命化総合マニュアル」に従い予防保全型管理を適用する場合 90 年目、対症療法型管理を適用する場合 60 年目と設定しますが、前述しますように、20 年後には管理橋梁の約 80%が 50 歳を超える状況から、50 年間には膨大な数の橋

梁が架け替えることとなり、財政的にも大きな課題が生じます。

架け替えは道路橋示方書に規定される耐久性 100 年の形式とし、橋長 5m 未満の橋梁の架け替えに際しては、ボックスカルバートへの架け替えを検討することとします。これは、架け替え費用と維持管理の容易さを考慮したものです。

⑤ 中長期修繕計画

計画期間の設定に際しては、管理橋梁の橋齢分布、今後の架け替え時期及び尾花沢市としての予算計画等を考慮・反映して策定、2025 年度から 2074 年度までの 50 年間としました。

⑥ 短期修繕計画

短期修繕計画は、中長期修繕計画の策定結果に基づき、当面の必要な対策を実施し、定期点検を実施しながら次の対策を検討するのに十分と判断される 10 年間（2025 年度から 2034 年度）としました。

(損傷事例)

対策区分評価Ⅱ～Ⅲの事例を写真により示します。

① RC 桁橋：



主桁コンクリートの剥離・鉄筋露出



主桁ひび割れ



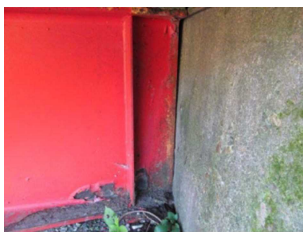
床版ひび割れ

② RC 床版橋：



床版コンクリートの剥離・鉄筋露出、遊離石灰

③ 鋼桁橋：



主桁端部の腐食および遊間異常



地覆コンクリートのうき

④ RC 下部工：



断面欠損

7. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期または架け替え時期

管理橋梁 140 橋についての短期修繕計画表（計画期間 50 年中の最初の 10 年間）を以下の通り示します。

予防保全型管理適用橋梁群については、架橋条件と健全度評価値から優先度評価を行い、予算平準化の条件の下で修繕計画を作成しました。

（補足）

- ・ 修繕計画表は、140 橋について示します。
- ・ 点検は、全径間近接目視点検を 5 年間隔で実施し、140 橋を 4 年間に分けて行います。
- ・ 補修設計は、補修対策実施年の 1 年前に設定します。

橋梁名	橋長 (m)	幅員 (m)	2025年度(R7)～2035年度(R17) 補修計画										
			2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
舟戸大橋	240.1	6.5											
萱刈畑橋	172.5	8.0											
和合橋	168.8	6.0											
芦沢大橋	111.4	8.8											
行沢橋	77.9	4.5											
紅内橋	75.0	12.0											
大海平跨線橋	67.0	8.1											
小田浦橋	60.0	8.3											
鶴巻田橋	57.1	4.5											
栗生橋	54.2	5.0											
矢越橋	45.1	2.5											
横石橋	36.0	4.0											
滝ノ上橋	28.3	3.0											
細野大橋	25.8	7.0											
田沢橋	25.7	8.0											
若宮橋	24.0	3.0											
片倉橋	24.0	4.0											
刈安橋	22.3	6.0											
河原宿橋	22.2	5.0											
野崎橋	21.9	6.0											
大柳橋	21.7	8.0											
待留1号橋	21.7	4.0											
十二堂橋	20.7	5.5											
八幡川橋	19.0	3.0											
関田川原橋	16.7	7.0											
八鍬沢橋	16.7	8.0											
川原橋	18.3	5.0											
宮田橋	16.3	5.0											
蓬萊橋	16.0	5.0											
西本橋	14.7	3.2											
矢込橋	4.4	5.0											
水沢川橋	14.5	8.0											
御行坊橋	14.1	4.5											
芳ノ沢橋	13.6	5.0											
新中島橋	13.5	8.3											
3-473-1号橋	13.5	5.0											
3-278-1号橋	13.3	2.0											
赤坂橋	13.1	4.0											
田中橋 (3-279-1)	13.9	4.5											
南宿橋	12.2	4.5											
田中橋 (3-279-2)	11.7	2.5											
石上橋	11.5	6.0											
松ヶ沢橋	11.4	3.0											
3-316-1号橋	11.4	5.0											
3-116-1号橋	11.2	4.5											
蒲ヶ沢橋	11.2	5.0											
市野々岩谷沢3号橋	10.7	5.0											
徳良湖橋	10.4	7.0											
岡前橋	10.4	4.0											
4-210-1号橋	10.2	3.0											
市野々岩谷沢1号橋	10.1	5.0											
4-243-1号橋	9.5	2.5											
寺山橋	11.7	2.5											
4-462-3号橋	8.6	2.5											

橋梁名	橋長 (m)	幅員 (m)	2025年度(R7)～2035年度(R17) 補修計画										
			2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
4-462-2号橋	8.5	2.5											
岩谷沢橋	8.4	4.5											
3-443-1号橋	7.9	5.0											
4-241-1号橋	7.3	5.0											
3-274-1号橋	6.4	3.1											
2-14-1号橋	6.3	6.0											
朧気橋	6.1	6.1											
3-639-1号橋	6.7	4.0											
獅子沢橋	5.6	6.3											
大堰橋	5.1	6.6											
3-448-1号橋	5.1	5.0											
4-440-1号橋	4.9	3.5											
3-116-3号橋	4.3	5.5											
3-120-1号橋	4.3	5.0											
3-319-1号橋	4.1	5.0											
野呂利川橋	4.0	6.5											
3-155-1号橋	4.4	10.3											
1-10-1号橋	3.7	6.3											
3-24-1号橋	3.6	6.5											
3-95-2号橋	2.9	14.3											
3-871-1号橋	3.5	3.3											
1-26-1号橋	3.5	18.0											
4-136-1号橋	2.6	2.5											
3-27-1号橋	2.8	7.4											
3-28-1号橋	2.8	15.6											
3-136-1号橋	3.8	14.5											
4-19-1号橋	2.9	4.5											
4-416-1号橋	7.7	3.2											
3-26-1号橋	2.3	10.0											
3-100-1号橋	2.6	6.5											
3-103-1号橋	2.3	2.5											
松山橋	13.6	6.0											
一の田橋	12.5	7.0											
補蛇落橋	12.3	8.0											
上の畑橋	12.0	4.0											
せとこひ橋	11.0	2.0											
綱木川上橋	10.8	6.5											
豊穰橋	10.8	5.0											
田の沢橋	10.7	3.0											
カバ山橋	10.5	7.0											
河恭橋	10.1	1.5											
横前橋	8.7	2.5											
台の原橋	8.5	4.1											
4-922-1号橋	8.0	2.8											
滝見橋	7.7	2.0											
湯沢橋	7.5	2.6											
3-610-1号橋	7.4	4.0											
4-926-1号橋	7.1	2.5											
4-714-1号橋	7.1	2.3											
4-706-1号橋	4.3	1.4											
4-707-1号橋	6.0	4.0											
4-686-1号橋	5.0	3.1											
3-661-1号橋	5.5	5.2											
2-21-1号橋	4.6	6.1											

橋梁名	橋長 (m)	幅員 (m)	2025年度(R7)～2035年度(R17) 補修計画										
			2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
十分一橋	4.8	9.3											
4-939-1号橋	4.5	4.0											
4-881-1号橋	9.5	3.2											
3-664-1号橋	4.4	11.3											
鍋越橋	4.0	5.0											
3-104-1号橋	3.7	3.2											
宮沢川橋	10.5	3.0											
鍋越下橋	3.5	6.0											
3-645-1号橋	3.4	6.0											
4-705-2号橋	3.0	1.5											
3-833-1号橋	3.8	3.8											
3-649-1号橋	2.9	5.6											
2-20-1号橋	2.7	9.0											
3-820-1号橋	2.7	3.4											
3-632-3号橋	2.3	1.7											
3-665-1号橋	2.6	6.5											
4-935-1号橋	2.5	8.3											
3-175-1号橋	2.9	5.7											
3-813-1号橋	3.0	9.0											
4-614-1号橋	3.5	2.0											
4-856-1号橋	2.4	2.8											
3-878-1号橋	2.0	6.4											
富山橋	63.6	6.0											
中河原橋	62.9	6.5											
荒楯橋	34.6	2.0											
尾花沢第一跨道函渠	29.4	16.0											
3-855-1号橋	6.7	2.0											
水沢橋	13.9	3.5											
原田橋	12.2	6.5											
市野々岩谷沢2号橋	10.0	5.0											
4-468-4号橋	4.5	3.1											
中島橋	11.0	3.5											

8. 長寿命化修繕計画による効果

前掲区分の予防保全型管理と対症療法型管理、経過観察型管理を適用する橋梁 140 橋について、修繕計画での LCC を、従来の方式であった全橋対症療法型管理による LCC と比較してその差を明確にすることにより、長寿命化修繕計画による効果を示します。

(修繕計画による LCC と対症療法型管理による LCC との比較 : 50 年間の LCC 合計)

修繕計画による LCC は、従来方式である全橋対症療法型管理を適用した場合に比べて約 34%、金額にして約 37.1 億円の削減が可能となり、長寿命化修繕計画を策定することによる効果は明確となります。

なお、下記費用のうち橋梁架け替え費用は、長寿命化計画を策定することで 95.4 億円から 42.0 億円の削減することが可能となります。

	予防保全＋対症療法型管理	対症療法型管理	比率
合計 (140 橋)	77.8 億円	114.9 億円	0.66:1.00

(LCC 推移の比較)

